

ニュースレター

DSD/JICA PROJECT ON DISABILITY



Department of Social Development (DSD) / Japan International Cooperation Agency (JICA)
Project for the Promotion of Empowerment of Persons with Disabilities and Disability Mainstreaming

2016年5月9日に始まった南アフリカ「障害者のエンパワメントと障害主流化促進プロジェクト」は、活動開始から1年が経ちました。第4号ニュースレターでは、プロジェクトサイトのあるリンポポ州で行われたベースライン調査の結果と、これまでの1年間の活動成果についてご報告させていただきます。

目次

ベースライン調査の結果	1-2
プロジェクトのこれまでの成果	3
今後の予定	3

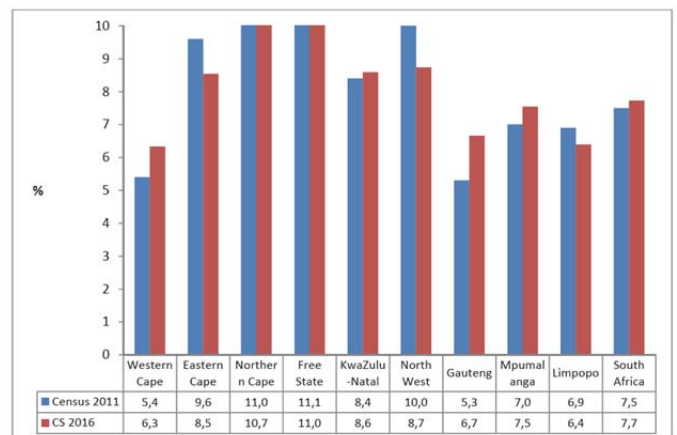
ベースライン調査の結果

プロジェクトは、障害者のおかれた状況や障害者のニーズを知ることを目的に、プロジェクトサイトのあるリンポポ州ベンベ郡でベースライン調査を行いました。ベースライン調査では、①南アフリカの統計資料の分析、②障害者のアンケート調査、③障害者や関係者のグループディスカッション、④障害者のインタビュー、⑤障害者の家庭訪問、⑥障害者に関連するサービスを行う団体のリソースマップ作成などを実施しました。

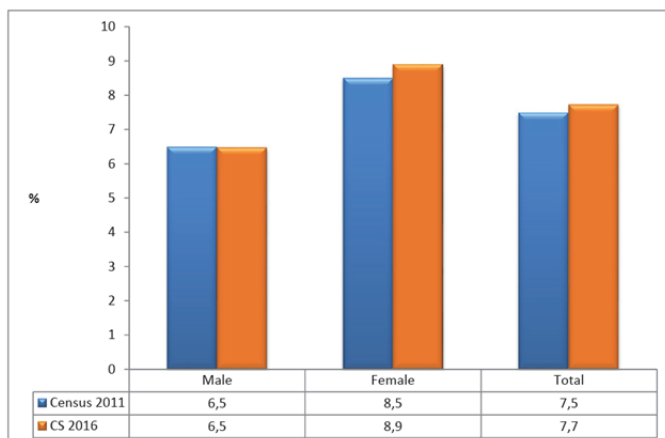
＜南アフリカの統計資料の分析結果＞

プロジェクトは、南アフリカ統計局からプロジェクトサイトの情報を収集し、2011年国勢調査と2016年コミュニティ調査から、障害者の数や住民の貧困度合いなどを調べました。南アフリカ全体の障害者率は、2011年国勢調査では南アフリカ国民の7.5%、2016年コミュニティ調査では南アフリカ国民の7.7%が障害者となっており、ほぼ同じ数値となっています。

南アフリカの州別の障害者率では、プロジェクトサイトのあるリンポポ州は、2011年国勢調査では6.9%、2016年コミュニティ調査では6.4%となっており、ともに南アフリカ全体の障害者率よりやや少なくなっています。



南アフリカ州別障害者率



南アフリカ障害者率

次に、南アフリカ州別の貧困率（非障害者を含む）ですが、リンポポ州は2011年国勢調査で10.1%、コミュニティ調査で11.5%と、比較的貧困率が高いことがわかります。中でも、プロジェクトサイトのある旧トゥラメラ市（2011年国勢調査および2016年コミュニティ調査後の2016年8月に市の統廃合があり、現在のプロジェクトサイトは旧トゥラメラ市の一部を含むリム345市です）は、2011年国勢調査で22.8%、コミュニティ調査で18.9%と市民の4～5人に1人が貧しいことがわかりました。

*2011年国勢調査は全数調査、2016年コミュニティ調査はサンプル調査です。

旧トゥラメラ市における 5 年未満就学者の割合は、2011 年国勢調査で非障害者が 14.7%に対し、障害者は 39.7%（差が 25%）、2016 年コミュニティ調査で非障害者が 14.0%に対し、障害者が 62.7%（差が 48.7%）と非障害者に比べ障害者の教育へのアクセスが著しく低いという結果が出ています。同様に、調理や暖房に使用する燃料やインターネットへのアクセスについても、非障害者に比べ障害者のアクセスが低いという結果が出ています。

<アンケート調査の結果>

プロジェクトチームは、プロジェクトサイトのあるリム 345 市で障害者に対するアンケート調査を行いました。アンケートは、世界保健機関（WHO）が開発した CBR 指標マニュアルをもとに、ルワンダやフィリピン、コロンビアなど JICA の「障害と開発」プロジェクトで使用されたアンケートを参考にして草案を作成しました。その後、障害者 5 名に草案を試してもらい、加筆修正を行いました。さらに、障害者団体や研究者など障害関係者で構成されるメーリングリスト“Disability Rights”で公開ヒヤリングを行った後、草案を最終化しました。アンケートは、一般情報、保健、教育、生計、社会、エンパワメントなど計 80 の質問で構成されており、村の障害者に調査員として協力してもらい、計 100 人の障害者からアンケートを収集しました。



質問表に答える障害者

アンケートの結果から、障害者が置かれた様々な困難が見えてきました。雇用に関しては、93%の障害者が失業中で、機能障害を理由に就労を断られた、職場が遠く、交通手段が無い、どこに就労の申請をすればよいか分からないなどが失業中の理由として挙げられました。一方、失業中の障害者のうち、48%は就労の機会を探していることも分かりました。障害者としての権利に関しては、51%の障害者が他者

から尊敬されていないと感じる、40%が障害者の権利について知らない、50%が障害者の権利擁護活動に参加したことが無いと回答しており、障害者のエンパワメントの必要性が明らかになりました。社会参加に関しては、40%が定期的に外出していない、51%が芸術や文化、宗教活動などに参加していない、74%がコミュニティ運営に影響を及ぼしていないと回答しており、障害者の社会参加の機会が非常に限られていることが分かります。

<グループディスカッションの結果>

プロジェクトチームは、サイトの障害者や家族、関係者などを対象に計 8 回のグループディスカッションを実施しました。ディスカッションでは、障害者や家族が直面する様々な課題が浮き彫りになりました。



グループディスカッションの様子

障害者自身に関しては、障害者がコミュニティ活動に参加していない、障害者は「障害者手当」頼りの生活で家に閉じこもっている、障害者の声を代表するプラットフォームが無いなどの意見が多数挙がりました。障害者の家族については、障害者の社会参加を認めない家族がいる、障害者の権利について家族が知らない、障害者のいる家族同士が情報交換する場が無い等が議論されました。社会に関しては、アクセシブルな公共交通機関が無い、行政は障害者に関する課題を後回しにしている、障害者の数やニーズなどの正確な情報が無い、障害者と行政が定期的に意見交換する場が無い等の課題が共有されました。

計 8 回のグループディスカッションを通じて、障害者を対象とした活動（障害者のエンパワメント）と、社会を変える活動（障害の主流化）の両方の重要性が明らかになりました。

プロジェクト活動の成果

プロジェクトは、障害者自身がプロジェクトの中心であり、社会を変える主体であるとの信念から、まず村の障害者のエンパワメントが必要と考え、ピアカウンセリングと自助グループの設立支援を行いました。

<ピアカウンセリング>

ピアカウンセリングは、障害者同士が対等な立場で話を聞きあうことでお互いを支え合う障害者エンパワメントの手法です。プロジェクトは南アフリカで実施されている草の根技術協力事業で育成されたピアカウンセラー、ジュライさんの協力のもと、ベースライン調査に協力してくれた障害者のいる2つの村でピアカウンセリングを行いました。

これまで村の障害者たちの多くは、差別や嘲笑を恐れ、家で過ごすことが多かったそうです。しかし、ジュライさんから自分自身を受け入れることの大切さや、障害があっても当たり前前に社会参加できること、障害者は他の人々と等しく権利を有していること等を聞き、参加者はとても励まされたと言います。また、ジュライさんから障害者の自助グループの活動を聞き、村の障害者は、村に自助グループを作りたいと考えるようになりました。



1対1で話を聞き合う障害者（ピアカウンセリング）

<自助グループの設立>

ピアカウンセリングに参加した障害者は、定期的集まりお互いの経験を話し合うこと、村にいる他の障害者を訪ね、話を聞くこと、村の人たちに障害について知ってもらうことなどを目的に自助グループを立ち上げることにしました。

自助グループは、定期的にミーティングを行うとともに、家庭訪問を行い新たなメンバーを探しています。また、プロジェクトは自助グループからの要請に応え、村で2回目のピアカウンセリングを行いました。現在自助グループは、社会開発省の行政官やソーシャルワーカーの協力を得ながら、収入創出活動するための場所や資金をどのように得るか検討しています。



木の下でピアカウンセリングを行う障害者

今後の予定

プロジェクトは2つの村での活動の経験から、関係者を巻き込みながら、ピアカウンセリングや自助グループ設立を行うことが、村の障害者のエンパワメント促進に非常に効果があることを学びました。今後プロジェクトは別の2つの村を訪問し、障害者のエンパワメントをさらに促進・拡大していく予定です。

引き続き、プロジェクトホームページを通じて、プロジェクトの進捗状況をご報告させていただきます。どうぞご期待ください。

Department of Social Development (DSD):
134 Pretorius Street, HSRC Building, Pretoria,
0001, South Africa

Editors:

Daisuke Sagiya: DaisukeS@dsd.gov.za

Ren Kamioka: RenK@dsd.gov.za